

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム ともだちの家 ユニットⅠ	評価実施年月日	平成21年12月20日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成22年2月1日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	職員の声を聞き作りあげた運営理念を言葉としてともだちの家独自の地域密着型理念として新しく取り組みそれぞれが形にしようと努力をしている。	○	地域との交流はなされている。また事業所独自の理念も新しく盛り込み取り組んでいる。
2 ○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	朝の申し送りにて唱和しスタッフ会議やケアカンファレンスにでも取り上げ日々実践に向け努力はされている。また日常の生活の中で意識はしているつもりではあるが中々難しいと思える事もある。	○	今後も職員間にての話し合いを持ちすべての職員が理念を共有実践できるように理念を広い意味にて捉えてより良いものとしていきたい。
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族の方々にはともだちの家便りとして利用者の日々の暮らしぶりを郵送のほか、町内会の回覧板、市役所ロビーなどへの設置もおこなっている。	○	ともだちの家便りを通して伝えていると思うが、周辺の散歩・買い物・通院など地域の方々とは触れ合いの場があり住み慣れたこのまちでともだちの家を知って頂く機会を広げていきたい。
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	買い物や散歩に出掛けた時には日常積極的に挨拶は交わしている。また回覧板を町内の方に持って来てもらったりこちらから持って行った時には声掛けしたり軽く会釈はされている。野菜類を頂いたり、漬物を頂いたりと親切な方々には日々感謝している。	○	隣近所の方々とは夏期なども外出や散歩に出掛ける機会が多いのだが中々出会えない事も多いのが現状でもある。
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会の運動会や他行事、近隣のデイサービスの盆踊りなどには積極的に参加している。また、ホームの各行事には町内会の方々、子供達に声を掛け参加して頂き一緒に楽しんでいただき時間を共有している。	○	利用者の方々も年々年齢を重ね参加人数も減少傾向ではあるが無理のないように今後も地域の人々と交流できる場所があれば行事等には参加していきたい。
6 ○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	ホームヘルパーの実習生や地域の短大生などの実習生を受け入れをおこなっている。	○	ホームヘルパー研修受講生の方に初心を思い出させて頂いたり時には考えさせられる事もあったりもした。今後も受講生個々に実習内容や指導法など考慮を重ね充実した研修になるように協力していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員全員で自己評価に取り組み結果をふまえスタッフ会議にて話し合い反省や改善に取り組んでいる。自己評価をおこなうことで日常職員それぞれに何気ない気づきも感じられるようになった。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議には、一個人ではなく各団体やグループから、会議の都度異なる方に参加していただくようにしている。また、会議形式のみではなく、行事への参加や感想アンケートなどを取り入れたりしている。	○	活発な活動と言いきれるほどの中身に成長していないことは否めないが、継続は力なりなので、参加者のみならず利用者・スタッフと相談しながら取り組んでいきたい。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	滝川市では、各グループホームの担当者を決めて対応してくれている。また市内事業所のケアマネージャーの会議が定期的に行われており、市担当者も出席している。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	現在1名該当者がいるが、市担当者や社会福祉協議会と相談をした結果、今のところは各制度を活用せずとも、ホームでの対応が可能という結論になっている。	○	知識として知っておくべきだが、正直なところこの他に学ぶべき課題が沢山あり、勉強会のテーマに取り上げるには至っていない。1名の該当者については、徐々に入退院の頻度が増えてきている。入院中の所用の代行も含め、今後、弁護士・司法書士等に相談する予定。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止関連の研修には参加し勉強している。またスタッフ会議にも議題として話し合いはされている。	○	今後も職員が学ぶ機会を折に触れて持ち続けたい。職員も人間であり日々生活の中で様々な感情もある。虐待とは身体に限る事ではないので日常生活のなかでの身近な言葉使いには特に気をつけていきたい。
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約や解約の際には、せかすことのないように十分に時間をとり説明している。書面については前もって写しを渡して目を通していただいてから、後日説明を加え質問に応じている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日頃から多少は遠慮しながらも意見や不満などは言っていると思う。利用者との関わりで言葉や態度からその思いを察しケアカンファレンスでも話し合い情報は共有されている。また、外部の方としては、訪問看護師に相談されたり話しを聞いて頂いたりされている場面も多々見受けられる。話しの内容は報告して頂いている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	家族の来訪時に声をかけ状況を伝えている。また、2ヶ月に1度のともだちの家便り写真をおり込み様子を伝えている。この他、毎月あずかり金残高とレシート等を郵送し、受診や薬の残数なども手紙でお知らせしている。職員の異動や採用・退職については随時知らせてはいるが、目にとまる場所に顔写真を掲示している。新年度にあわせ年に1度抱負コメントを含み職員紹介をしている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族からの不満・意見・苦情などは前向きにとらえ努力はされている。また周囲からの評判などもスタッフ会議やケアカンファレンス・連絡ノートにて話し合いはおこなわれている為職員各々周知はされている。また言いやすい雰囲気作りにもつとめている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営者や管理者は要望や意見には耳を傾けてはくれていると思う。しかし不満や苦情は中々言い出しにくい部分もあるもあるのでタイミングが合わずそのうち忘れてしまうこともある。スタッフ会議などでも意見などを求める機会を設けてくれているとは思っている。	○	組織の中で活動する以上解決する事が難しいテーマだと思う。運営者や管理者・職員の間にお互いの歩みよりが温度差を縮める事になるのではないかと。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	柔軟な対応が出来る勤務体制にはなっていると思う。考慮してローテーションは組まれている。また、夜間利用者急変時には管理者が対応応援してくださるので心強い。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	基本的には同ユニットにて勤務し馴染みの職員による支援ができる様に配慮されている。退職などにて職員の数に問題がある場合などはユニット間の移動はあるが利用者のダメージは配慮されている。また、離職の場合は一定の利用者にダメージが大きいと思われる事がある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	正職員・パート職員問わず研修の機会は設けている。研修に参加させて頂きレポートを提出しているが参加された研修内容を理解しているのは限られた人のみであり良い内容の研修であれば他の職員にも知って頂きたいと思う。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	市内のグループホームの行事に参加したり、こちらからも招待したりと交流を深めている。時にはアイデアを頂いたりと見学する事で勉強になる事もある。北海道認知症高齢者グループホーム協議会と滝川地域介護サービス事業者連絡協議会に加入し情報を得たり主催の研修に参加している。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	休憩室や喫煙場所も確保されている。また、職員間の親睦会には毎回場所を変え食事会等美味しい物を食べ飲みし気分転換を図っている。違うユニットの職員とも会話ができコミュニケーションを持つ事もできている。飲み会の回数ももう少し多くなればよいと思う。		
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	年2回の健康診断・有給休暇などは適切に実施されている。介護に関する資格取得に対しては、試験に向けての勉強時間や、休みの調整などおこない、また情報などは収集し伝えている。各自が向上心を持って働けるように支援はされている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	初期段階では、本人・家族・管理者・計画作成担当者が面談をおこない記録にとりまとめている。職員がいつでも見られる様にはされているが、中には目を通さないでいる職員もいる様子。事前に本人にも来所して頂きホーム内を見学して頂き納得し入所して頂く様に心がけている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	事前面談記録には、面談時の家族の状況や求めている事などを記載し、職員がいつでも目を通せるようにはしている。話し合いの内容などの行き違いも有ったりする場合も考えられるので管理者・計画作成担当者が主に対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	すでに他のサービスを利用しており、居宅介護支援事業所の担当ケアマネージャーから紹介を受けることが多い。また、入院中に病院の地域連携室担当者から退院後の相談という形で紹介を受けることもある。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	何度でも足を運んでもらい“説得”ではなくて“納得”して来てもらえるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	職員は利用者と喜怒哀楽を共にし時には励まされ時には笑ったりと互いに支えあう関係作りに努めている。利用者から昔ながらの知恵や個々の得意な分野と一緒に携って頂き日々助けられている。昔の話を聞いたり冗談を話したり和やかに過ごすようにしている。	○	今後もお互いの気持ちを理解しつつ職員本位になる事無く良い関係を保ちたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	職員と家族の関係はある程度築けてはいると思われるが全ての家族とは言えないのが現状である。利用者の様子や職員の思いを家族伝え情報共有に努め本人を支えていく為に協力関係を築いていきたい。	○	本人と家族の諸事情も考慮しつつ無理せず歩調を合わせて信頼関係を持てる様に接していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	なるべく日々の生活状況をこまめに伝え、ホーム内行事への誘いや本人の話題などを糸口により良い関係を築いて頂ける様に潤滑油的な存在になるように心掛けたい。	○	家族関係により温度差はあるが出来る限り両者の思いが伝わるようにお手伝いしていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ひとりひとりの生活習慣を出来る限り尊重している。	○	本人だけでは無理であり家族の方の協力も必要である事も多々ある。もう少し協力を仰ぎたいと思われる事柄もあるが軽視されていると思われる事もある。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者それぞれ日により心身の状態や気分など変化もあり、いつもは仲が良くても陰湿な雰囲気になる事もある。職員がトラブルの予兆に早めに気づき支えあえるように努めている。	○	時には、言い争いになったり仕様の合わない話からモメ事になったりする時もある。利用者同志の関係が上手くいくように聞き入り配慮されている。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院された場合にはお見舞いに出掛けたり家族の方も来所されたり電話を頂いたりされ近況報告はされている。またお悔やみを耳にした場合は管理者が職員の代表として参列している。また退居された方にはイベントに招待したりもしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中で体調・表情・会話から把握する様に努めてはいる。またカンファレンスにても1人1人の事を話し合ったりもしている。	○	時には、本人が話しをしても現実不可能な事もあり我慢して頂くこともある。全てが納得されていない場合もあり本人が納得されるような説明をしたい。また個々性格もあり控えめな方もいるので日中の会話の中から希望などがあれば引き出したい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の情報や入居されてからの本人や家族との日常の何気ない会話の中から把握し馴染みの暮らし方ができる様に努めている。	○	入居後の利用者との会話などから今迄の生活観なども知る事が出来たり家族の方にも情報を頂いたりし職員間でも情報は共有されている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	センター方式のシートなどを活用して、24時間通して気がついた事や行動・変化などを記録して職員間で情報を共有できる様に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	月に1～2回程度のケアカンファレンスの中で職員全員で話し合いをしその内容をもとに介護計画を作成している。家族の方の意見を取り入れたり本人の声を組み入れたりもしている。計画案を見せ説明同意して頂いている。職員の気づきがあれば、職員全員にも問い掛け考慮し計画に反映するようにしている。時には良い意見があったり、気づきがあっても繁栄しきれていない時もある。	○	職員全員が把握出来るようにケアカンファレンスにて再確認話し合いを持つようにしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状態の変化にもよるが、だいたい3ヶ月に1度の見直しの間隔を取りおこなっている。出来るだけ本人、家族、必要関係者とも接点を持ち現状に即した新たな計画を作成をしている。	○	職員間にて計画変更や小さな手順の変更など伝達が不十分なきもある。出来るだけもれのない連絡方法や変更後の確認など全員が把握出来るようにしたい。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	センター方式のシートを活用しながら、個別のファイルを用意し身体的状況や日々の出来事などを記入している。いつでも職員が記入したり、その場でも見られるようにしている。職員間でも情報の共有が出来記録から後日データを得られ介護計画の見直しに役立っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	利用者や家族の要望により通院や買い物など柔軟な対応が出来るように努めている。	○	事業所としても今後も近隣の方々にも気軽に相談や話し合いに来られる場所となるように努めたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	町内会の方々・ボランティアグループ・滝川ボランティアセンターの皆さんに行事などには協力いただいている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	訪問理容や歯科往診などは家族・本人の希望があれば利用している。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターが音頭を取って、市内の様々な種類の事業所のケアマネジャーの会議が2ヶ月に1度の頻度で開催されている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人や家族が希望するかかりつけ医に診察してもらっている。原則として家族が通院付き添いをしているが、日常の様子が伝わりやすいように口頭またはメモで伝達をしている。家族の付き添いが難しい場合は職員の付き添いにて受診している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	砂川市立病院もの忘れ外来は予約をとるだけでも、かなりの日数を待たなければならない。近隣の協力医の紹介がなければ診察を受けることができないシステムでもあり、受診は現実的ではない。 滝川市立病院精神神経科にかかる方がほとんどである。担当医師は認知症が専門分野ではないと思われるが、話はいねいに聞いてくれると思う。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	週に1度の訪問看護師の来訪があり健康相談にのってもらっている。電話での相談は24時間受け付けてもらっている。小さなことでも相談にのってもらえ安心感がある。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院した場合には、主に管理者が病院関係者に状態確認をしている。職員にはその様子を連絡ノートで知らせている。また、可能な場合には職員も顔を出すようにしている。 必要な方へは家族に代わり身の回りの物を届けている。症状にもよるが、近頃はこちらから望まなくとも早期退院のケースがほとんどである。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化に関する指針を示し、家族に同意していただいている。 イザの時が、急なのか少しずつの変化なのか誰にもわからないが、ヒトには必ず終わりの時が訪れることを、職員各自自覚していきたい。 センター方式シートC-1-2【私のターミナルや死後についての願いや要望は・・・】の欄も空欄や「死にたくない」といった内容がよくあり、利用者自身もそばにいる職員自身も、踏み込んで考え及ばないのも事実である。	○	「ギリギリまでここにいて最期は病院で」という言葉を家族からはよく聞く。しかし、家族間の中で気持ちは揺れ動くと思像する。 ピンピンコロリとなかなかいかないことは、誰もがうなずけることなので、問題提起の方法を探っていきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	検討や準備はおこなわれていない。グループホーム単独での運営なことや、多くの利用者が公立病院にかかっていることもあり、もしもグループホーム内で終末期を迎えることの希望があれば、チーム編成はかなり難しいと考えられる。 また、北海道の地域性からか病院で晩年を過ごすことも珍しいケースではない。	○	現時点では「できないこと」の方が圧倒的に多いように思う。ここがはじめての介護職経験という職員が90%以上を占める現実もあり、最期の時に近づきつつあるひとを間近で見たことすらない職員もいる。 心構え・技能・行動力を身につけるにはどうしたらよいものか、途方にくれるのが正直な心境でないだろうか。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	この一年間は入院の他は例がない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	個人情報の保護に充分に気をつけてはいるが、何気なく話す日常の言葉掛けや対応にて配慮不足の時もある。	○	利用者・職員それぞれ感情の揺れ動きは日々同一ではない。時には相手を傷つけてしまう言葉を発している事もあると思う。対応が上手く行かない場面に遭遇した場合は職員間にてフォロー出来る様に努めたい。
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	利用者本人の希望や意見を取り入れて自らにて選択出来る様に支援している。	○	自分の希望や意志を表に出す事が苦手な利用者に対して日常の会話のなかから探りだし出来るだけ取り入れられるよう配慮していきたい。
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	利用者の方の体調や気分に合わせて生活を送ってはいるが共同生活の中で思いどおりに行かなかったり職員の都合にて希望に添えない事もある。	○	シフトの関係にてチーム内での出来る事も困難な事もあるチームの一員として仕事の達成度も気にしつつ利用者が納得できる事を重要視できるチームワークを望みたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	頭髪や衣類は個々の生活習慣に合わせ支援をしているが時には個人によっては整えられていない事もある。その人らしい清潔感のある身支度になるようさりげなく声掛けしたい。またある程度一定の状態にて過ごせるように支援したい。	○	パーマ・毛染めをしたくても頭皮の状態により出来ない利用者もいる。本人に説明し一応納得はされているが違うおしゃれにも目を向けてあげたい。
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	献立作りも利用者の希望を取り入れている。職員と一緒に台所に入り各々調理が得意な方には食事準備苦手な方には食器を拭いて頂いたり、テーブルを拭きおこなって頂いたり人それぞれ出来る内容に違いはあるが共に職員と会話楽しみながらお手伝いしていただいている。	○	利用者全員が何か関わられる仕事があれば何気ない声掛けにても誘い参加して頂きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お酒やおやつは本人の体調や他利用者の方に配慮しながら楽しんで頂いている。また喫煙される方もお好みのタバコを購入されて楽しまれている。	○	糖尿病であるにもかかわらずオヤツ・ジュースなどを購入され他者以上に飲食されている方もいる。家族の方には話してはいるのだが……今後も家族の方にも協力して頂き支援して頂ける様に努めたい。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄のチェックシートを使い、パターンをつかみ声を掛けている。その時の利用者の状況により尿パットや紙パンツの種類などを見直している。水分量や時間を目安に声掛けはされているが本人の希望に添えない時もある。	○	声掛けのタイミングが合わず利用者に不愉快な思いをさせてしまっている事もあると思われる。また時には大きな声にて対応されたり配慮を心掛けたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	現在は週に2回程度の入浴にて対応されている。出来るだけ本人の希望を取り入れたりはしているが時間帯などはケアカンファレンスの都合また他の都合などにより希望に添えないこともある。	○	利用者により午前中を好む方また午後からを好む方もいて出来るだけ希望には応えてはいる。また自立を好んで入浴される方もいるが洗身など補助が必要な時もあり一緒に入る事により背中をこすってもらえるので気持ちが良いと話される利用者もいる。今後もひとりひとり入浴によりリラックスされた時間を持って頂きたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	ひとりひとりの体調や様子を見ながら、日中でもソファーや自室での休息をすすめている。夜間眠れぬ方には家族または主治医に相談し内服薬を処方していただく事もある。日中も自室に閉じこもる事がないように声掛けは都度されている。	○	昼夜逆転されている利用者の方には日中活動声掛けするが中々眠くて応えられず、ケアカンファレンスにでも話し合いはされてはいるが難しい課題である。今後も継続し話し合いをしていき声掛け働きかけも続けていきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	ひとりひとりの力を発揮出来る様に本人が得意としている仕事を頼んだり職員と一緒にこない、無理のないよう取り組んでいる。	○	どんな小さな楽しみ事でも内容にこだわらず職員も声掛けをし出来るだけ多くの利用者にもチャンスの幅を見つけてあげたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人の力量や状態により家族の方にも相談しながら金銭の扱いをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	季節にもよるが夏期はなるべく外出・散歩の声掛けをおこない天候の良い日は外に目をむけるようにしている。またドライブにもでかける機会も多くあり外食・買い物にも出掛けている。	○	冬期は外出も天候により左右され中々外出は難しい。室内でも出来る様な気分転換を図れるレクなども考慮したい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	行事として出かける時は利用者の希望を取り入れ全員参加の行事として出掛けたり希望があれば個人の遠出に職員や家族の方なども一緒に出かけられている。	○	ホームでの行事など家族の方が一緒に参加楽しんで頂けるように声掛けしていきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	公衆電話を設置して本人の希望時に自由に会話はできるようにしている。家族からの電話は子機を利用し自室にてゆっくり会話できる様に支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも居心地良く過ごして頂ける様に職員も心掛け対応はされている。自室や居間にてゆっくり過ごして頂きお茶を飲用していただいたりリラックスされるように配慮はされている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	勉強会・研修・スタッフ会議などでは学習し身体拘束をしないケアを実践している。時により利用者の身体に影響があり治療の為記録に残し1ヶ月ほど実践した事はある。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は鍵をかけることはない。時には利用者が玄関扉の鍵を閉めてしまうことがある為訪問者から誤解を招かれた事もある。注意を払いすぐ開けるようにはしている。またセンサーの察知に気を配り外出された場合はそと寄り添い一緒に出掛けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○利用者の安全確認</p> <p>67 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>昼夜問わずひとりひとりの様子や状況を把握するようにしている。夜間は3時間間隔にてすべての場所を巡視したり随時確認や声掛けをおこなっている。</p>		
<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>68 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>薬は常に鍵のかかる場所に保管され、包丁や洗剤・石鹸等は夜間のみ施錠し特定の場所に保管されている。本人の状況により家具・寝具の配置場所の変更をしたり危険と思われる物品があれば家族と相談し返却したり預ったりする場合もある。</p>		
<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>69 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>事故やヒヤリハット報告など書面にまとめ整理されている。ケアカンファレンスの時間に内容について検討し再発防止に努めている。なるべく小さな事でもヒヤリハットにて提出してもらい日々の申し送りや伝達防止策をとっている。</p>		
<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>70 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>緊急マニュアルを準備しており、いつでも再確認出来る様になっている。また、年に1度職員が救命講習を受講しており応急処置の方法をおさらいをしている。</p>	○	<p>実際になったら平常心ではいられないのではないだろうか。今後も定期的にAEDの使用方法や心肺蘇生法など勉強を続けたい。</p>
<p>○災害対策</p> <p>71 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>避難訓練をおこなっている。また、スプリンクラー設置へ向け準備をしている段階である。日頃より緊急災害マニュアルなどにも目を通してしている。地域の方々の協力を得られるように町内会の方々には日頃の働きかけもしている。利用者の誘導方法なども会議などで話し合いはおこなわれている。</p>	○	<p>緊急時における災害対策も定期的に勉強する機会があれば、いざとなったら慌てず対応できるのではないか。</p>
<p>○リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>72 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>状況の変化に応じ、家族に説明し日々その方らしく生活出来る様行動には常にリスクが伴うことを家族の方には日頃から話しはされている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタルチェックをおこない体調の変化に配慮している。気づいた場合は訪問看護STIに相談したり早期受診などしている。また、夜間も救急時であれば必要に応じて受診もされている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬局より頂く処方内容シートはいつでも全職員が見られる様に個別にファイルにて保管されている。また薬の変更や症状の変化などあればバイタルシートや連絡ノートに書き込みもおこなっている。チェック板などを使用し日々確認はされている。	○	薬の効用やせめて副作用について職員ももう少し学習が必要でないかと感じる事もある。薬局からのお薬についての説明を読むだけでも薬の名前や効用なども理解でき時には勉強になる事もあると思う。その方に合わせて処方されている内服の大切さを知る事にもつながるのではないだろうか。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分量に気を配ったり食材の工夫をしたり便秘解消に良いと思われる食品は献立には組み込まれている。また、起床後から朝食までの間に牛乳の飲用を勧めている。個人の好みに合わせて温めたりもしている。手軽な運動にも取り組んではいるが継続できないこともある。また、日頃よりバイタル表にて排便を確認医師の指示により下剤を用いる事もある。	○	簡単な体操をすすめたり、出来るだけ身体を動かして頂くように職員も一緒にはしているが利用者の方の気分にもより参加していただけない事もある。なるべく薬に頼らない便秘予防策をとる事に今後も努めたい。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後ひとりひとりの力量に応じて歯磨きや入れ歯の手入れを支援している。利用者の方の口腔内清潔維持には努めている。	○	利用者それぞれ念入りに磨いている方もいれはすぐ終わってしまう方もいる。磨き方などは職員が何気なく側にて見守り確認してあげることも必要であるかもしれない。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分量の把握やバランスの良い食事を取れるように日々心掛けてはいる。利用者によっては食の細かい方や食にムラがある方などもケアカンファレンスなどにも都度話し合いをし様々な食品を食事以外でもすすめている。また、カロリー計算はされてはいないがバランスの良い食事になるように心がけてはいる。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等)	インフルエンザの予防接種を利用者も職員も全員受けている。他の感染症についてもマニュアルを作成し万が一発生した場合の対策や対処方法を記載している。日常のうがいや手洗いは励行されている。また、予防対応はおこなえていると思うが、神経質になりがちなのもいる。	○	感染症に対してもっと学ぶ機会があっても良いと思う。MRSAに感染された利用者の方に対して過度な防備をしたり暴言が聞かれ残念に思った事もある。ホーム全体としてもう少し感染症に対しての知識を学ぶ機会を増やしたい。あわせてスタッフ個々に衛生についての冷静な認識を深めてほしい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	布巾・まな板・スポンジ・三角コーナーなど毎食後欠かさず消毒している。台所周りや冷蔵庫内の衛生には気を配っているが不確かな時もある。包丁・ボールなどにも注意を払いたい。また冷蔵庫内の食品なども賞味期限に気をつけている。	○	冷蔵庫内は週に1度水曜日の遅出が掃除をする当番のはずだが徹底されていないので今後も留意したい。また食器棚も出し入れが頻繁なため乱雑になりやすいので気を配りたい。その時の状況により手付かずの調理済みのものもあるがもったいない気持ちを持たずにすみやかに処分したい。また食材が多かった時には、上手に使い切る工夫に努めたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	ベンチやプランターを置き季節感を出せる様に工夫をしたり玄関前の土地の広さは充分とは言えないが明るい玄関周りを保つ様に心掛けてはいる。また、見方によってはもう少しの工夫も必要なのかもしれない。	○	現在も努力はそれなりにされていると思われるがもう少し玄関先に季節感を出す演出があっても良いのではないかと思う。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の空間としては状況に合わせて工夫や配慮はされているが食後など排泄時間が重なってしまい不便を掛けていることもあると思われる。また、廊下にはボランティアの方に貼って頂いた季節感ある絵が沢山飾られたり台所にての料理の匂いや音などは、利用者には伝わっていると思われる。	○	トイレは3ヶ所あり食後に混雑する傾向あり人それぞれトイレを使用される時間もまちまちの為現在は若干待って頂いたり隣のユニットに行き借りたりしている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下の広さを利用しソファーやベンチを設置ひとりひとりの居場所を作られ居心地良く過ごされる様にしている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者それぞれが馴染みの物を使用されている。利用者それぞれのこだわりもあり生活スタイルに合わせて居心地良く過ごせる様に工夫をしている。	○	限られたスペースの中で本人の思い入れが強い物なども家族の方と相談し処分も適度におこなわれている。入居後月日が過つと荷物なども徐々に増えつつあるが本人の意向をなるべく取り入れ整理整頓清潔を保ち居心地の良い空間にしてあげたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気・温度の調整・消臭剤の利用・結露対策など配慮はされている。また、冬期は乾燥もされるので加湿器なども利用し湿度調整などもされている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>手摺や滑り止めなどを設置し、段差が少なく車イスでの日常生活も可能である。ADLの変化にともない個別に車椅子やシルバーカーなどの器具も取り入れている。</p>	<p>○</p> <p>浴室の手摺の位置が動線に添っていない歩行不安定の利用者の方の介助時は多少危険と思われる事がある。また、浴室の出入り口は手摺の設置のバランスが取れていない為か声掛け誘導はされているが戸惑っている事も多い。</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>立体的な目印を設置したりして、利用者の方に気づいて頂く様に目を引くように工夫はされている。また、尋ねられる事にて安心感を持っていただける方もいるので、目印だけに頼らず誘導したり日々同じ質問をされても快く答えるように心掛けてはいる。</p>	
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>中庭に畑があり秋には収穫を楽しみにしている。玄関先のベンチに座りながら日向ぼっこをしたり、ひさしの下で焼肉をしたり、物干しに洗濯物を干したり居間から乾いた衣類を取り込んだりもしている。</p>	

V. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない ②
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ①
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ①
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ②
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ③
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ①
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ①
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない ②

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない ③
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない ②
98	職員は、生き生きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない ②
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ②
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない ②

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

毎日毎日、たったひとつでも良いので、皆で喜べる小さな事を一緒に見つけていきましょう。